

パネル③「大衆文化研究の資料学」各報告概要

2022/1/22（土）10：00～12：30 国際日本文化研究センター第1共同研究室（オンライン併用）

【趣旨】

大衆文化研究プロジェクトではこれまで、妖怪関係資料、絵入百科事典、絵はがきや鳥瞰図、大衆雑誌、映画、漫画など、さまざまな大衆文化研究資源に関わる実践に取り組んできました。各パネリストが、資料収集のコンセプトやその整理方法、資料の扱い方や見せ方、デジタル技術との関わりといった観点から、そうした実践について報告します。報告と討議を通して、これらの研究資源を相互に活用し、これからの日本大衆文化研究にどのように活かすことができるのかを考えます。

【プログラム/報告概要】

（10：00～ 第一部）

・木場貴俊（京都先端科学大学講師）

怪異・妖怪データベースプロジェクトは長きにわたって資料収集と電子公開、そして資料に基づく研究活動を蓄積してきた。これらの研究活動の成果が、大衆文化研究プロジェクトの事業のなかで、どのように活用し、展開することができたのか。今回は、細見と三次の展示事業を中心にして考えていくことにする。

*参照 URL（研究資源：妖怪関連データベースなど）

<https://db.nichibun.ac.jp/pc1/ja/category/yokaigazou.html>

<https://db.nichibun.ac.jp/pc1/ja/category/yokai.html>

https://taishu-bunka2.rspace.nichibun.ac.jp/activity_report/subcate_05/3005/

・石上阿希（国際日本文化研究センター 特任助教）

「近世期絵入百科事典データベースの構築と展開—絵と言葉の書物」

発表者は2015年より「近世期絵入百科事典データベース」の構築を行い、2017年に試作版、2021年度に正式版を公開する。本DBは、近世期から明治初期までに出版された絵入百科事典や絵入本を対象とし、それらに収載された様々な図と名称の翻刻を検索できるようにしたものである。本発表では、構想から公開までの過程や資料の収集、小袖雛形本研究における活用の実践例などを報告し、今後の展望として機能の追加や他のDBとの連携についても述べたい。

*参照 URL（研究資源：近世期絵入百科事典データベース）

<https://db.nichibun.ac.jp/pc1/ja/category/kinseiki-eiri.html>

・劉 建輝（国際日本文化研究センター 教授）

「研究資源としていかに鳥瞰図や絵葉書を利用すべきか？」

従来、いわゆる文化研究において、地図や美術作品は「正統」の研究資源として多々利用されてきたが、その周辺に存在する鳥瞰図や案内図また絵葉書などはほとんど無視され、研究の俎上に載せることが少なかった。本発表では、吉田初三郎の鳥瞰図や大正・昭和期の美術絵葉書を例に、それがいかに研究資源として重要不可欠であり、また利用対象の範疇と方法次第で「正統」の資料群を上回る効果を有するかを説き明かしたい。

*参照 URL（研究資源：吉田初三郎式鳥瞰図データベースなど）

<https://db.nichibun.ac.jp/pc1/ja/category/choukan.html>

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/2020-10-22-14106/>

・高島麻子(高島華宵ロマン館 主任学芸員) 佐藤守弘(同志社大学教授・「大正イマジュリィ学会」副会長)
日文研大衆文化研究プロジェクト・大正イマジュリィ学会・高島華宵大正ロマン館との連携による研究
推進活動の一環として構築された本データベース(2021年度中に公開予定)には、明治末期から昭和初
期に刊行された大衆雑誌37種405冊の表紙・目次・口絵・裏表紙などの画像約2,000点とそのメタデ
ータが含まれる。これらは大正期の大衆文化の視覚的側面を考える上で重要な資料であり、美術史・文
化史・社会学・歴史学などの多領域にわたる研究に資する資料である。本データベースの概要(高島)
とその活用の可能性(佐藤)について発表する。

*参照 URL(研究資源:高島華宵大正ロマン館所蔵近代日本大衆雑誌画像データベース)

<http://taisho-imagery.org>

<https://www.kashomuseum.org>

(11:15~ 第二部)

・近藤和都(大東文化大学 専任講師)

映画研究や教育をめぐる資料状況は、近年大きな変化を迎えつつある。レンタルビデオ店が衰退し、
「古典的作品」にある程度網羅的にアクセスできる場が減る一方で、「戦時下」や「風俗」を押し量る
資料として関連雑誌の復刻は進みつつある。本報告では、牧野守関連資料の整理や映画館プログラム・
カタログの作成を通じて得られた知見から、映画研究と資料の関係、復刻されるものとされないものの
関係について考察する。

*参照 URL(研究資源:牧野守・映画関連資料など)

https://taishu-bunka2.rspace.nichibun.ac.jp/activity_report/subcate_01/2382/

<https://www.ohtabooks.com/publish/2021/01/18164541.html>

・石川肇(国際日本文化研究センター・プロジェクト研究員)

「資料の発掘と分析にかかわる人間関係」

資料を用いた研究を考える際、その工程として、第一に「資料の発掘」があげられるが、そのためには
古書籍などを取り扱う業者さん、そして資料を直接に保管しているご遺族からの情報が大変重要なもの
となってくる。それ無くして「新資料」と呼ばれるものはなかなか出てこないし、その延長上にある歴
史やエビデンスが、第二の工程となる「資料の分析」に大いに役立ち、新たな研究が生み出されること
になる。

*参照 URL(研究資源:時代劇映画関連資料など)

<https://newsletter.nichibun.ac.jp/research/670/>

https://taishu-bunka2.rspace.nichibun.ac.jp/activity_report/subcate_05/2819/

・エルナンデス・エルナンデス・アルバロ・ダビド

(国際日本文化研究センター・プロジェクト研究員)

「消えていくメキシコ漫画の歴史——『ごみ』とみなされた資料の価値の再発見」

大衆文化研究プロジェクトの一環として、これまで、日本漫画文化史とメキシコ漫画文化史の比較研究
に取り組み、展覧会やシンポジウムなどを開催した。日本とメキシコそれぞれで深く浸透した大衆文化
の歴史は、表現と社会の接点を新たな角度から考える貴重な機会を与える。しかし、特に漫画文化の場
合、資料の価値が認められず、消えてしまうことが多い。本報告では、展覧会活動を通して、消えて行
くメキシコ漫画文化関連資料群の価値の再発見について検討する。

*参照 URL(研究資源:メキシコ漫画関連資料)

<https://www.shibunkaku.co.jp/publishing/list/9784784220298/>

<http://imrc.jp/images/publish/other/report2019/exhibition2019-04.pdf>

(12:00~12:30 コメント・ディスカッションなど)

・コメンテーター:関野 樹(国際日本文化研究センター 教授)

<司会>前川志織(京都芸術大学 専任講師)